

平成 24 年度ウルメイワシ対馬暖流系群の資源評価

責任担当水研：西海区水産研究所（福若雅章、大下誠二、安田十也）

参画機関：日本海区水産研究所、青森県産業技術センター水産総合研究所、秋田県水産振興センター、山形県水産試験場、新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センター、山口県水産研究センター、福岡県水産海洋技術センター、佐賀県玄海水産振興センター、長崎県総合水産試験場、熊本県水産研究センター、鹿児島県水産技術開発センター

要 約

本資源の資源量をコホート解析により推定した。資源量は 2000 年まで漸減傾向にあったが、2001 年以降は増加傾向にある。2009 年の資源量は 66 千トン、2010 年は 72 千トン、2011 年は 133 千トンと推定された。資源の回復措置をとる閾値である B_{limit} を親魚量 27 千トンとした時に、2011 年の親魚量は 42 千トンであり、 B_{limit} を上回っていると推定される。したがって最近 5 年間の RPS 中央値に対応する F_{med} を F_{limit} とし、その F で漁獲される量を ABC_{limit} とした。予防的措置から $0.8F_{limit}$ で漁獲される量を ABC_{target} とした。

	2013 年 ABC	資源管理基準	F 値	漁獲割合
ABC _{limit}	64 千トン	F_{med}	1.16	41%
ABC _{target}	57 千トン	$0.8F_{med}$	0.97	36%

漁獲割合は、漁獲量÷資源量。F 値は各年齢の平均。

年	資源量 (千トン)	漁獲量 (千トン)	F 値	漁獲割合
2010	72	29	1.27	40%
2011	133	37	0.96	28%
2012	167	—	—	—

ただし、2012 年の資源量は加入尾数を仮定した値。

水準: 中位 動向: 増加

本件資源評価に使用したデータセットは以下のとおり

データセット	基礎情報、関係調査等
年齢別・年別漁獲尾数	漁業・養殖業生産統計年報（農林水産省） 主要港水揚げ量（鳥取県～鹿児島(8)県） 月別体長組成調査（水研セ・鳥取県～鹿児島(8)県）
資源量指数 ・魚群量調査 ・産卵量	計量魚探を用いた魚群量調査（水研セ） ・計量魚群探知機、中層トロール 卵稚仔調査（水研セ、青森～鹿児島(17)府県） ・ノルパックネット
自然死亡係数(M)	年あたり M=0.7 を仮定

1. まえがき

我が国周辺に分布するウルメイワシは対馬暖流系群と太平洋系群から構成される。マイワシやカタクチイワシに比べてやや暖かい海域に分布し、漁獲量の変動幅はマイワシに比べて小さい。

2. 生態

(1) 分布・回遊

本種は日本の沿岸域を中心に分布し、特に本州中部以南に多い（落合・田中 1986）。ウルメイワシの漁場は沿岸に沿って帯状に形成され、一部のウルメイワシは夏季に日本海へ、冬季に九州西岸へ回遊すると考えられる（図1）。

(2) 年齢・成長

対馬暖流域におけるウルメイワシの成長式を月別の体長組成を用いて推定した結果次の通りであった（大下ほか 2011; 図2）。

$$BL_m = 244.77(1 - \exp(-0.10(m - 0.55)))$$

ただし、BL_m はふ化後月数 m における被鱗体長(mm)である。寿命は3年程度。

(3) 成熟・産卵

卵・稚魚の出現状況から、産卵は九州周辺水域ではほぼ周年にわたり行われ、北方の海域ほど期間は短くなり、青森県以南の日本海北部では春から夏にかけて行われると考えられる（内田・道津 1958）。ウルメイワシは1歳で成熟する（図3 大下ほか 2011）。

(4) 被捕食関係

ウルメイワシはカイアシ類、十脚類幼生、端脚類などを捕食する(Tanaka et al. 2006)。大型魚類、ほ乳類、海鳥類、頭足類などに捕食される。

3. 漁業の状況

(1) 漁業の概要

ウルメイワシ対馬暖流系群は、東シナ海区（福岡県から鹿児島県）では中小型まき網や棒受網、日本海西区（福井県から山口県）では大中型まき網、中型まき網、定置網などにより漁獲され、日本海北区（石川県・富山県）では定置網などで混獲される。漁獲が多いのは、東シナ海区と日本海西区である。なお、対馬暖流域では、沿岸での釣りや刺網による漁獲はほとんど行われていない。

(2) 漁獲量の推移

対馬暖流域全体での漁獲量の経年変化を図4および表1に示した。東シナ海区において、ウルメイワシの漁獲量は1981年から1997年までは7千トンから16千トンで推移していたが、1998年から2000年にかけて減少した。2001年以降は増加に転じ、2010年は15千トン、2011年は17千トン（暫定値）であった。日本海西区においては、1980年代半ば以降漁獲量が増加し、1992年には31千トンになり、その後2000年にかけて減少した。2001年以降の漁獲量は6千トン～12千トンで推移していたが、2011年では20千トンに増加した。日本海北区においては、ウルメイワシはあまり漁獲されず、年間漁獲量は多くても2千トン程度である。2011年の漁獲量は6百トンであった。

韓国でのウルメイワシの漁獲量は1990年前半に24千トンと多かったが、その後減少した（表1）。なお2005～2010年には、韓国におけるウルメイワシの漁獲量は報告されていなかったが、2011年の漁獲量は0トンであった。中国のウルメイワシの漁獲量は不明である。

4. 資源の状態

(1) 資源評価の方法

月別漁獲量と体長測定資料から推定した年齢別漁獲尾数を用いたコホート解析により資源量を推定した。

(2) 資源量指標値の推移

日本海（1979年以降）および九州西岸（1997年以降）において実施された卵稚仔調査（改良型NORPACネットの鉛直曳きによる卵採集調査）の結果に基づいて算出された産卵量の経年変化を図5に示した。日本海の産卵量は、1980年代後半から1990年代前半まで高い水準にあり、その後急激に減少した後安定して推移している。東シナ海の産卵量は2003年に非常に高い値を示したが、それを除くとほぼ安定して推移している。

夏季に九州西岸域から対馬海峡で行なわれた計量魚群探知機による現存量調査の指標値（Ohshimo 2004）と中層トロールによるCPUE（kg/網）の推移を図6に示した。計量魚群探知機による調査で求められた現存量指標値は、1997年から2000年にかけて低い値であったが、2001年には大きく増加した。その後、2002～2004年は減少傾向、2005年以降は増加傾向にあったものの、2010年は前年から減少し、2011年にはさらに減少した。中層トロールCPUEは、2002～2010年には現存量指標値の推移とほぼ同じ傾向にあったが、2011年には前年より増加し現存量指標値の変化とは異なった。

(3) 漁獲物の年齢組成

月別の年齢－体長キーにより年齢別漁獲尾数を求めた。漁獲は0・1歳魚が主体である（図

7)。

(4) 資源量と漁獲割合の推移

コホート解析により資源量を推定した(図8)。自然死亡係数(M)は0.7を仮定した。1970年代後半から1980年代半ばにかけて資源量は減少傾向にあったが、1980年代後半から1990年代半ばにかけて増加し、その後再び2000年代前半にかけて減少した。2001年以降は変動しながらも徐々に増加している。2011年の資源量は133千トンと推定され、資源量推定を行った36年間のうち4番目に多かった。漁獲割合は25%から60%の間で推移し(図8)、資源量減少期にはやや高くなる傾向にあった。Mを0.5から0.8の間で0.1刻みに変えたときの2011年の資源量・親魚量と加入尾数の推定値を図9に示した。

図10に再生産関係を示した。親魚量と加入尾数には正の相関が認められたが、親魚量が多くなると加入尾数は頭打ちになる傾向が認められた。資源管理の基準となるBlimitは加入尾数の上位10%を示す直線と、再生産成功率の上位10%を示す直線の交点に近い1984年の親魚量27千トンとした。2011年の親魚量はBlimitを上回っている。図11には親魚量とRPSの関係を示した。親魚量が少なくなるとRPSが増加する傾向にあった。また、図12にはRPSの経年変化を示した。

(5) 資源の水準・動向

2011年の資源の水準は、中位と判断した。なお低位と中位の境はBlimitの値とし、中位と高位の境は加入尾数が頭打ちとなる親魚量75千トンとした(図10)。動向は過去5年間の資源量の推移から増加と判断した。

(6) 資源と漁獲の関係

資源量が少なくなると漁獲係数が高くなる傾向が認められた(図13)。また経年的にみると、資源量が減少した1980年代半ばと1990年代後半には漁獲係数が高い傾向にあった。

5. 2013年ABCの算定

(1) 資源評価のまとめ

資源量は1990年代後半にかけて漸減していたものの、近年の動向は増加である。水準は中位、動向は増加と判断した。2011年の親魚量は42千トンでBlimitを上回った。

(2) ABC並びに推定漁獲量の算定

ABCを算定するにあたり2012年以降の加入量は、近年5年間(2007~2011年)のRPSの中央値(38.3尾/kg)と親魚量で加入尾数が決まると仮定した。また、親魚量が75千トン以上(資源量推定期間における上位10%の値)の時には加入尾数は29億尾で一定と仮定した。2012年の各年齢の漁獲係数は2011年と同じとした。2013年の漁獲係数は2歳魚の漁獲係数に対する0・1歳魚の比率が2012年と同じと仮定し、2歳魚のFを増減することで資源量や漁獲量の計算を行った。

資源量および再生産関係が分かっており、2011年の親魚量はBlimitを上回っている。したがってABC算定規則の1-1)-(1)でABCを算定した。ABCを算定する式は次のとおりであ

る。

$F_{limit} = \text{基準値}$

$F_{target} = F_{limit} \times \alpha$

基準値は近年5年間（2007～2011年）のRPSの中央値に対応するF_{med}とし、予防的措置としてのαは0.8とした。図14に2011年の選択率をもとにしたFに対する%SPRとYPRの関係を示した。

	2013年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	64千トン	F _{med}	1.16	41%
ABCtarget	57千トン	0.8F _{med}	0.97	36%

ただし、漁獲割合は、漁獲量÷資源量、F値は各年齢の平均。

(3) ABClimitの評価

図15および下表に2013年以降のFをF_{med}に対して0.6から1.4まで0.2毎の係数を乗じて得られる値とした時の資源量と漁獲量について示した。F_{med}で漁獲したときに2013年以降の資源量は2011年水準よりもやや増加する。

	漁獲量 (千トン)						
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
0.6F _{med}	37	64	47	50	51	51	51
0.8F _{med}	37	64	57	54	54	54	54
F _{med}	37	64	64	56	55	55	55
1.2F _{med}	37	64	69	55	50	45	41
1.4F _{med}	37	64	74	53	44	36	29
	資源量 (千トン)						
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
0.6F _{med}	133	167	156	162	164	164	164
0.8F _{med}	133	167	156	150	150	150	150
F _{med}	133	167	156	140	140	140	140
1.2F _{med}	133	167	156	115	115	104	94
1.4F _{med}	133	167	156	95	95	78	64

(4) ABCの再評価

昨年度評価以降追加されたデータセット	修正・更新された数値
2010年漁獲量確定値 2011年漁獲量暫定値	2010年、2011年年齢別漁獲尾数
2011年年齢別体重	再生産関係、%SPR

評価対象年 (当初・再評価)	管理基 準	F 値	資源量 (千トン)	ABClimit (千トン)	ABCtarget (千トン)	漁獲量 (千トン)
2011 年 (当初)	F2009	0.92	84	29	25	—
2011 年 (2011 年再評価)	F2009	0.88	63	23	20	—
2011 年 (2012 年再評価)	F2009	0.82	133	36	31	37
2012 年 (当初)	F2010	0.88	63	23	20	—
2012 年 (2012 年再評価)	F2010	1.27	167	70	63	—

2011・2012 年の資源量が当初から 2012 年再評価時に増加したのは、2011 年の 0・1 歳の漁獲尾数が多く、2010・2011 年の加入量が当初評価時の見積もりに比べ多く推定されたためである。

6. ABC 以外の管理方策の提言

本種は寿命が短く、漁獲物の大半は 0・1 歳魚である。親魚量と加入尾数には正の相関が見られたので、資源を安定して利用するためには、親魚量を一定以上に保つことが有効である。そのため、加入が少ないと判断された場合には、0 歳魚を獲り控えるなどの方策が効果的だと考えられる。

7. 引用文献

落合明・田中克 (1986) 新版魚類学 (下) . 恒星社厚生閣, 1140pp.

Ohshimo, S. (2004) Spatial distribution and biomass of pelagic fish in the East China Sea in summer, based on acoustic surveys from 1997 to 2001. *Fish. Sci.*, 70, 389-400.

大下誠二・後藤常夫・大塚徹・槐島光次郎 (2011) 東シナ海におけるウルメイワシの年齢・成長と成熟特性. *日本水産学会誌*, 77, 15-22.

Tanaka, H. I. Aoki and S. Ohshimo (2006) Feeding habits and gill raker morphology of three planktivorous pelagic fish species off the coast of northern and western Kyushu in summer. *J. Fish Biol.*, 68, 1041-1061.

内田恵太郎・道津善衛 (1958) 第 1 篇 対馬暖流域の表層に現れる魚卵・稚魚概説. 対馬暖流開発調査報告書. 第 2 輯, 水産庁, pp. 3-65.

渡部泰輔 (1983) 卵数法. 水産資源の解析と評価 (石井丈夫 (編)), 恒星社厚生閣, pp. 9-29.

銭谷弘・石田実・小西芳信・後藤常夫・渡邊良朗・木村量 (編) (1995) 日本周辺水域におけるマイワシ、カタクチイワシ、サバ類、ウルメイワシ、およびマアジの卵仔魚とスルメイカ幼生の月別分布状況: 1991 年 1 月～1993 年 12 月. 水産庁研究所資源管理報告 A, 1, 368pp.

表1. ウルメイワシの漁獲量（トン）

年	日本海北区	日本海西区	東シナ海区	韓国
1975	561	8,851	20,553	
1976	718	10,614	23,586	2,869
1977	428	14,671	19,516	6,227
1978	675	18,693	22,369	9,607
1979	828	18,671	18,586	4,212
1980	782	16,235	10,975	5,102
1981	949	11,698	12,585	4,244
1982	802	11,535	13,268	5,625
1983	910	17,699	9,949	10,606
1984	1,088	18,551	7,745	10,829
1985	1,186	14,684	7,244	8,994
1986	1,042	25,713	12,897	14,033
1987	1,115	14,826	12,244	10,300
1988	1,794	28,863	16,421	10,693
1989	854	25,488	15,789	7,280
1990	1,211	27,431	13,798	4,205
1991	1,420	26,755	7,152	4,463
1992	2,266	31,200	11,816	3,597
1993	1,548	22,671	15,709	24,383
1994	2,045	29,546	14,268	23,974
1995	1,668	14,222	12,165	18,345
1996	1,052	14,803	9,985	10,663
1997	1,421	13,518	12,327	5,593
1998	1,125	14,710	5,872	1,974
1999	780	8,068	5,247	6,674
2000	700	6,244	2,983	4,603
2001	863	7,520	6,195	766
2002	580	7,063	6,678	788
2003	1,101	7,064	5,057	885
2004	487	8,621	7,530	755
2005	1,083	10,638	3,823	—
2006	229	6,739	7,902	—
2007	499	9,952	16,512	—
2008	441	6,036	8,837	—
2009	1,146	7,813	13,767	—
2010	1,114	12,486	15,091	—
2011	631	19,914	16,721	0

2005～2010年の韓国の漁獲量は公表されていない。

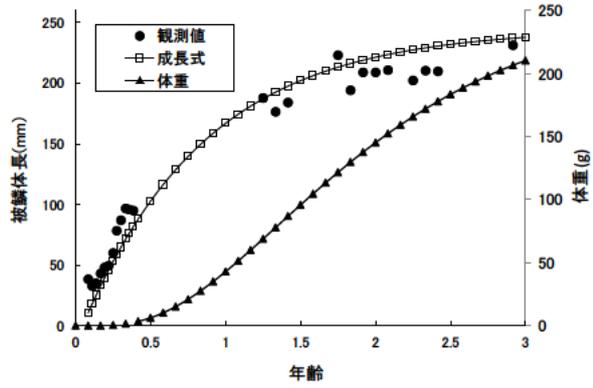


図1. ウルメイワシ対馬暖流系群の分布図 図2. 月別体長組成からもとめた成長式(太線) ●は鱗と耳石日輪による年齢査定結果。

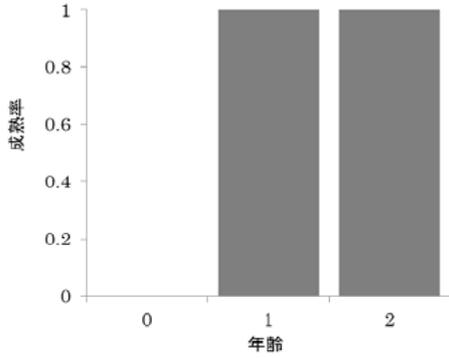


図3. 年齢別の成熟

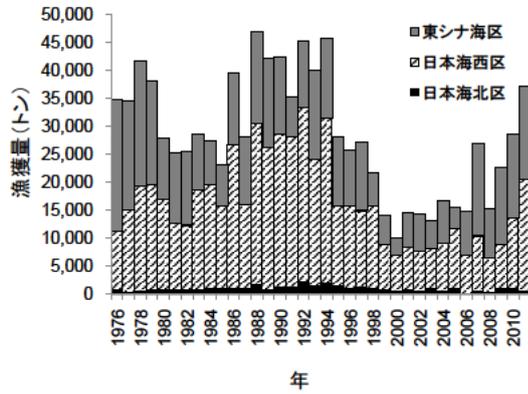


図4. ウルメイワシの漁獲量

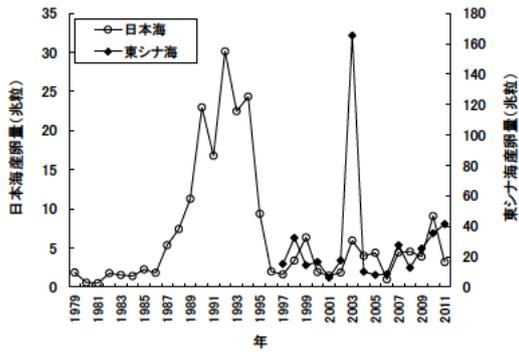


図5. 産卵量の経年変化

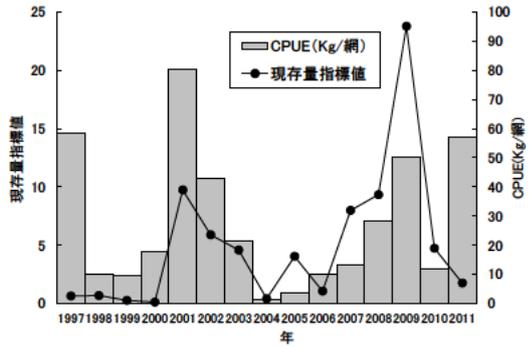


図6. 計量魚探・中層トロールの結果
棒グラフ:CPUE、折線グラフ:現存量指標値。

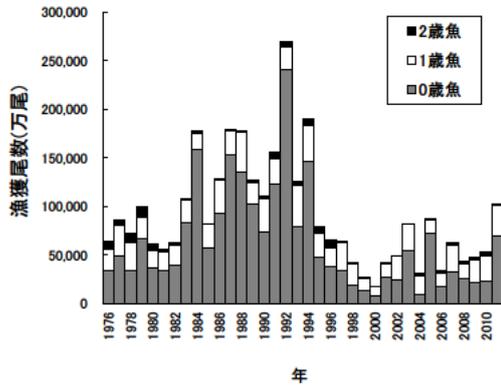


図 7. 年齢別漁獲尾数

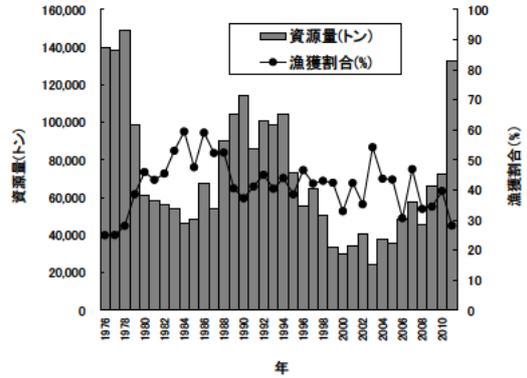


図 8. 推定された資源量と漁獲割合
棒グラフ：資源量、折線グラフ：漁獲割合。

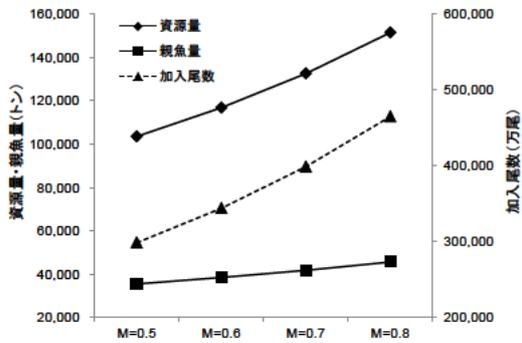


図 9. Mを変えた時の資源量
親魚量・加入尾数。

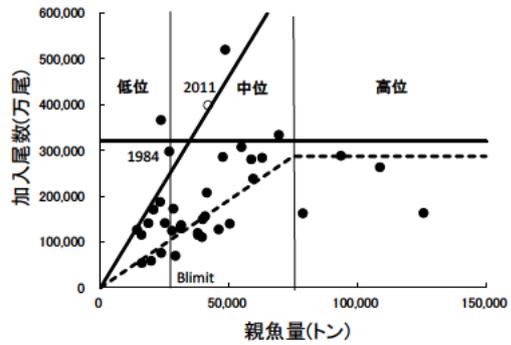


図 10. 親魚量と加入尾数の関係
および Blimit の推定 (白丸は 2011 年)
破線は加入尾数を推定する際の関係。

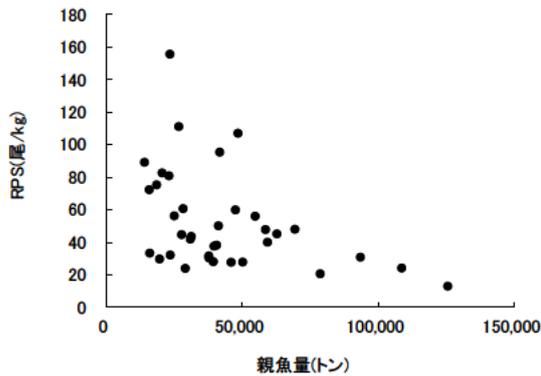


図 11. 親魚量と RPS の関係

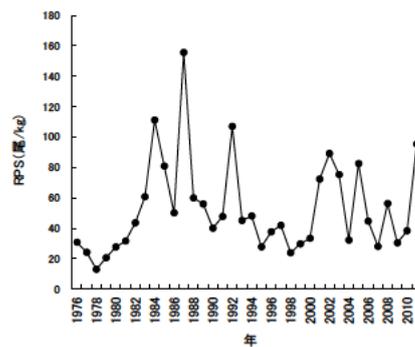


図 12. RPS の経年変化

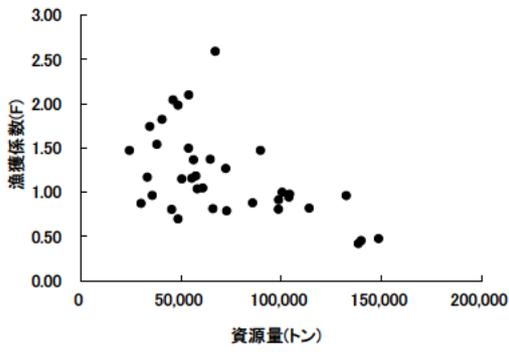


図 13. 資源量と漁獲係数(F)の関係

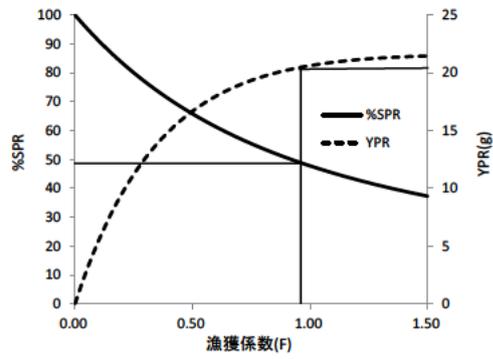


図 14. 漁獲係数(F)と%SPR および YPR の関係

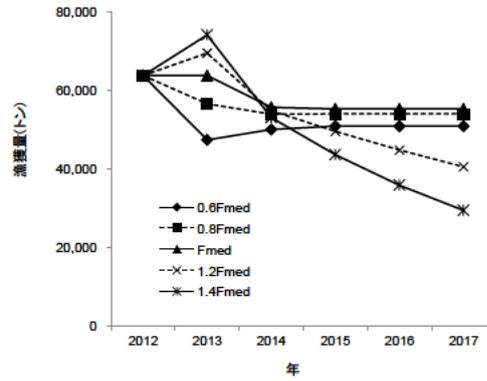
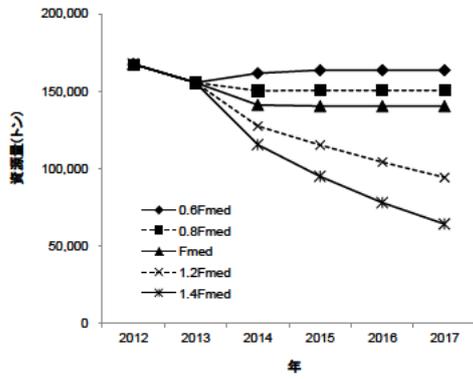
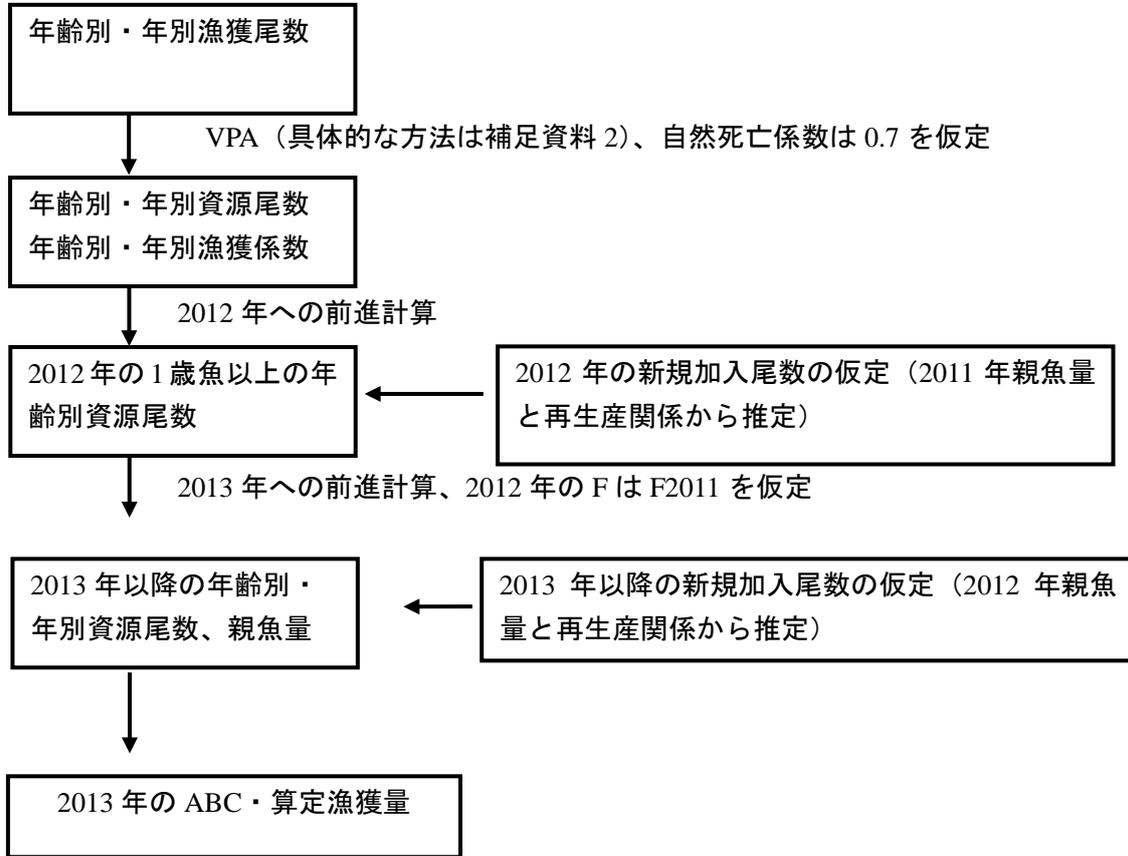


図 15. Fを変えたときの予想資源量 (左) と漁獲量 (右)

補足資料 1 (フロー図)



補足資料 2 資源計算

年齢別漁獲尾数をもとにコホート解析を行なった。なお、ウルメイワシの寿命は 3 年として計算した。計算方法は次のとおりである。

式(1)により 2010 年以前の 0、1 歳魚の年齢別年別資源尾数を計算した。

$$N_{a,y} = N_{a+1,y+1} \times \exp(M) + C_{a,y} \times \exp\left(\frac{M}{2}\right) \quad (\text{式 1})$$

ここで、 $N_{a,y}$ は y 年における a 歳魚の資源尾数、 $C_{a,y}$ は y 年 a 歳魚の漁獲尾数、 M は自然死亡係数(0.7)である。ただし、最高齢 (2 歳) および最近年 (2011 年) の各年齢の資源尾数については次式により計算した。

$$N_{a,y} = \frac{C_{a,y} \times \exp\left(\frac{M}{2}\right)}{\left\{1 - \exp\left(-F_{a,y}\right)\right\}} \quad (\text{式 2})$$

F は漁獲係数であり、最高齢および最近年以外は以下の式で計算される。

$$F_{a,y} = -\ln\left[1 - \frac{C_{a,y} \times \exp\left(\frac{M}{2}\right)}{N_{a,y}}\right] \quad (\text{式 3})$$

2010 年以前の 2 歳魚の F は、1 歳魚の F と同じと仮定して計算した。また、2011 年の 0 歳魚と 1 歳魚の F は 2008 年から 2010 年の同歳魚の F の平均値として計算し、(1)の式を用いて資源尾数を計算した。2011 年の 1 歳魚と 2 歳魚の F が同一となるように $F_{2011,2}$ を決めた。

また、2012 年以降の将来予測について、1 歳魚、2 歳魚の資源尾数は次の式を用いて前進法により推定した。

$$N_{a+1,y+1} = N_{a,y} \exp(-F_{a,y} - M) \quad (\text{式 4})$$

0 歳魚の資源尾数は、各年の親魚量と設定した再生産成功率により算出した。

2012 年以降の年齢別の漁獲尾数は次の式を用いて推定した。

$$C_{a,y} = N_{a,y} \left(1 - \exp(-F_{a,y})\right) \times \exp\left(-\frac{M}{2}\right) \quad (\text{式 5})$$

補足資料3 ウルメイワシのコホート解析のためのデータおよび推定された値
年齢別漁獲尾数 (万尾)

年	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
0歳	33,754	49,638	34,113	67,230	37,217	34,541	39,356	83,715	158,879	58,123
1歳	21,925	31,779	28,098	21,596	17,119	18,933	20,505	22,932	16,960	23,448
2歳	9,296	5,095	10,813	10,497	6,714	2,296	2,964	1,656	2,422	824
年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
0歳	92,433	153,413	135,083	102,529	73,529	122,892	241,214	79,828	146,540	47,121
1歳	35,483	24,884	42,012	21,833	34,560	26,498	22,901	41,792	37,213	25,365
2歳	826	577	723	3,292	3,320	6,201	6,225	4,730	6,296	6,417
年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	38,037	34,478	19,072	13,548	7,628	27,057	24,337	54,736	9,472	72,697
1歳	19,880	28,013	21,925	11,785	9,636	13,699	24,936	26,973	19,670	13,706
2歳	7,209	2,338	2,070	2,534	1,090	1,880	619	854	2,345	749
年	2006	2007	2008	2009	2010	2011				
0歳	17,661	32,612	26,203	21,203	23,804	69,480				
1歳	14,318	27,029	14,725	23,929	24,773	31,125				
2歳	2,478	3,573	2,490	2,563	5,146	1,818				

平均体重(g)		1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
年		1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
0歳		16	11	14	12	12	17	18	15	6	14
1歳		81	71	85	73	87	86	70	61	85	61
2歳		126	126	121	134	129	132	139	131	113	117
年		1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
0歳		12	8	15	16	23	10	10	13	10	16
1歳		77	59	62	99	63	62	62	58	64	52
2歳		124	120	128	125	111	112	110	114	109	114
年		1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳		11	26	30	23	26	16	21	4	19	9
1歳		62	54	59	62	66	54	34	37	59	60
2歳		131	141	146	146	150	152	114	109	141	125
年		2006	2007	2008	2009	2010	2011				
0歳		17	16	14	24	20	23				
1歳		59	62	55	59	68	62				
2歳		141	137	137	137	138	117				

漁獲係数(F)

年	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
0歳	0.18	0.31	0.35	0.88	0.54	0.53	0.52	1.17	1.42	0.58
1歳	0.59	0.48	0.54	0.77	1.30	1.29	1.79	1.66	2.35	2.68
2歳	0.59	0.48	0.54	0.77	1.30	1.29	1.79	1.66	2.35	2.68

年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
0歳	1.00	0.90	1.11	0.64	0.58	0.97	1.07	0.51	0.98	0.65
1歳	3.38	2.70	1.65	1.10	0.94	0.84	0.96	1.12	0.98	0.86
2歳	3.38	2.70	1.65	1.10	0.94	0.84	0.96	1.12	0.98	0.86

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0歳	0.45	0.47	0.49	0.40	0.22	0.40	0.32	0.80	0.19	0.93
1歳	1.51	1.82	1.48	1.56	1.20	2.41	2.57	1.81	2.21	0.98
2歳	1.51	1.82	1.48	1.56	1.20	2.41	2.57	1.81	2.21	0.98

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011
0歳	0.23	0.51	0.31	0.30	0.24	0.28
1歳	0.94	1.51	1.06	1.07	1.78	1.30
2歳	0.94	1.51	1.06	1.07	1.78	1.30

年齢別資源尾数 (1000 万尾)

年	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
0 歳	288	263	163	163	127	119	137	172	297	187
1 歳	70	119	96	57	33	37	35	40	27	36
2 歳	30	19	37	28	13	4	5	3	4	1

年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
0 歳	207	366	285	307	238	280	520	284	334	140
1 歳	52	38	74	47	80	66	53	88	85	62
2 歳	1	1	1	7	8	16	14	10	14	16

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
0 歳	149	130	70	59	54	116	127	141	76	170
1 歳	36	47	40	21	20	21	38	46	31	31
2 歳	13	4	4	5	2	3	1	1	4	2

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011
0 歳	124	111	141	115	156	399
1 歳	33	49	32	52	42	61
2 歳	6	7	5	6	9	4

推定された資源量 (トン)・親魚量 (トン)・RPS (尾/kg)

年	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985
資源量	139,996	138,573	148,711	98,666	60,941	58,188	56,352	53,834	46,073	48,628
親魚量	93,572	108,728	125,671	78,781	46,031	37,851	31,402	28,400	26,767	23,194
RPS	30.78	24.19	12.98	20.63	27.68	31.54	43.56	60.69	111.10	80.81

年	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
資源量	67,136	53,893	89,761	103,958	114,038	85,832	100,563	98,787	104,313	72,871
親魚量	41,395	23,543	47,634	54,872	59,448	58,692	48,565	62,906	69,450	50,318
RPS	50.11	155.55	59.91	55.99	40.04	47.75	107.03	45.09	48.04	27.77

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
資源量	55,451	64,703	50,458	33,237	30,141	34,472	40,608	24,385	38,050	35,762
親魚量	39,759	31,045	29,201	19,723	16,136	15,972	14,216	18,692	23,651	20,651
RPS	37.59	41.89	23.88	29.74	33.36	72.34	89.17	75.3	32.16	82.56

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011
資源量	48,568	57,461	45,433	65,976	72,368	132,533
親魚量	27,847	39,517	25,110	37,905	40,735	41,814
RPS	44.63	28.04	56.23	30.40	38.28	95.34